

# コスト・ラムロ कस्तौ राम्रो

2006年6月発行



バーチョーク村LED  
照明システム完成式典  
でのマン・バハドール  
・グルン村長との交歓



ブジュン村送電線・  
架線工事技術指導風景  
出口理事とブジュン村  
の青年たち。

## バーチョーク村に『徳島の灯』

### — LED電化プロジェクト完成式典報告 —

私たち、徳島ネパール友好協会が日亜化学工業(株) (阿南市) から無償提供を受けたLED (発光ダイオード) と、徳島県民に建設資金を募り (+外務省助成金)、ネパール中部のバーチョーク、プラノバーチョーク、ドテニ各村 (250戸、約1000人) で、2003年12月から進めてきたLED家庭用照明システムが完成し、その式典が3月17日バーチョーク村で開かれました。

式典は、3村関係者をはじめ、当システムを提唱されたチャンドラ・P・グルン氏 (当協会会友・WWFネパール代表) と共に、徳島から現地入りした当協会親善使節団員ら6名も出席し、大勢の村民に囲まれて全ての家庭に灯った『友好の灯』の完成を祝いました。

現地時刻、17日夕刻、マナスル峰を臨む村の集会場広場 (と言っても猫の額程度・・・) で始まりました。

先ず三村を代表して、LED電化プロジェクト委員長、マン・バハドール・グルン村長が「これまで電気がなくて困っていた。徳島の皆さんが全ての家庭に電気をつけてくれたことで、村の生活が大きく改善されることになった。支援に対して非常に喜んでいる」と感謝の言葉を述べられました。

続いて天野が「完成したことを共に喜びたい、このシステムは日亜化学工業(株)をはじめ徳島の多くの方々の協力を得てできた。この灯で少しでも生活改善が図られることを願っている。大切に使って村の発展に役立ててもらいたい」と完成を祝い、グルン村長と共に照明システムに記念のスイッチを入れました。

更に、チャンドラ・P・グルンさんが完成までの経過報告をしたうえで、我々への感謝と、村民に対しても何時までも徳島県民への感謝の気持ちを忘れないよう、話されました。

最後に、村の女性代表が「LEDのおかげで仕事や勉強が出来るようになった。一生忘れられない出来事です」と話すと、会場は一層大きな拍手に包まれました。

式典後は、村を照らすLEDの灯の下で祝賀会が開かれ、システム完成の喜びを分かち合う祝宴が夜遅くまで続きました。

当事業へのご支援、ご協力をいただいた県民、企業、事業所のみなさん、そして会員のみなさんに改めてお礼申し上げます。“本当にありがとうございました”

尚、このLED家庭用照明システム設置総費用は、約850万円 (LED270万円、外務省助成金475万円、残りの105万円が村民負担と県民からの寄付金) です。

また、同システムは、小型ソーラーパネルを電源とし、50CCバイク大のバッテリーに蓄電し、「白色LED」で作った電球 (@9個×6灯) で発光するものです。

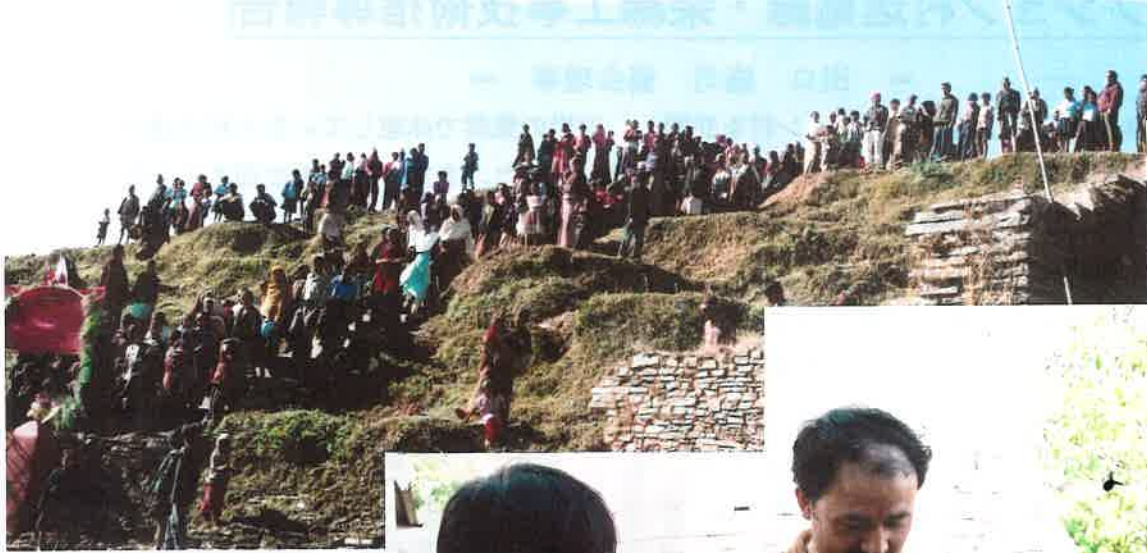
その特徴として、消費電力が少なく、従ってソーラーパネルやバッテリーの容量が小さくてよい (安価)、又、蛍光灯の寿命に比べ圧倒的に長い (メンテナンス不要)、更に、電圧が低い感電の恐れがなく、作業や管理が容易なため、電気に縁のなかったネパール山村 (発展途上国) にふさわしいシステムとして、注目を集めております。

2006年5月 徳島ネパール友好協会 会長 天野 親聡

# バーチョーク村等LED家庭用照明

## システム完成式典出席使節団報告

—2006年3月15日(水)～22日(水)—



使節団を出迎えてくれた  
バーチョークの村人達

照明システムのトラブル  
の相談に来たドデニ村人



使節団との意見交歓会に  
見えた、関係3村の人々



11-3/15

## ブジュン村送電線・架線工事技術指導報告

＝ 出口 隆司 協会理事 ＝

2004年12月、徒歩でブジュン村を訪問し、対岸の集落で休憩していると村人達から「もう1年も電気灯らない、困っている!」と聞かされた。また、我々を出迎えてくれた村の青年達(小型水力発電所管理技術者も同行)からも「数年前、村を襲った大雨で対岸集落への送電線が流されてしまった」と聞いた。破戒された現場での話の中で、私が「どうして修理しないのか?」と聞くと、マン・パハドール・グルン青年は強い口調で「出来ない!」「よし、それなら今から、一緒に直そう、早く工具を持ってきなさい!」「無い!」「じゃー、ロープでもいいから持ってきて!」「それも無い!」日本で当たり前の事でもネパールでは難しい・・・、改めて、その大変さを実感させられた。



私は、その場で次回ブジュン村に来る時には、必ず村人自らの手で修理出来るよう架線工事技術指導と、電気工事工具一式をプレゼントする事を約束して村を後にし帰国した。

本年3月ネパール訪問時、電気工事工具を携えて同村を訪れようと計画していましたが、交通事情で同村までは行けなかった。しかし、たまたま同村青年が所用でカマズに來ていることが分かり、連絡を取り早速技術指導を実施、約束を果たすことができた。

○ 胴網 柱上での作業の姿勢 ○ カッシャとロープを使った電線の送り方  
○ 電線を張る機々のカムラー取り付け、シメラー取り扱い  
○ 電線の止め方(535) = 「535」は技術指導の代名詞となる言葉となった= 4人の青年達は、私の指導に対して、すごく真剣な姿勢で取組み、覚えるのも早く優秀な生徒達だった。彼達なら修復作業は充分可能で、間違いないと確信した。

今回の指導で修理でき、対岸の集落に「灯」がともっているのを是非見に行き、村人達と「灯り」の下でロキシーを飲みながら友情を深めたい。また、彼等が送電線をどのように修復したのか確認したいし、次の機会には彼等と現場で一緒に作業してみたい。

### ○ ネパール電化事業NHK総合テレビで全国放送

当協会がネパール、ブジュン村に支援した小型水力発電設備について、平成17年11月12日(土)11:00~11:30の「地球大好き」の番組で全国放送されました。

○ 日亜化学工業(株)の社内報にバーチョーク村等のLED照明設置、掲載

## Nichia's Contribution to Social Welfare

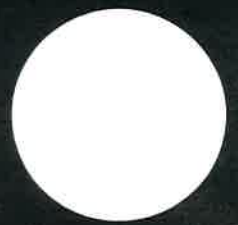
◆ Contributed to “LED Solar panel home illumination system installment project” by Nepal Tokushima Friendship Association (NPO)

▪ Many houses in the mountainous areas (altitude: 1200m) of Nepal use candles, and many children are weakening their eyes for studying under very dim lights

▪ Nichia donated 14,000 LEDs to NTFA, and engineers in Nepal use the LEDs for new lighting fixtures, which consumes 1/15 energy of incandescent lamps.



# 国際協力



2005. August

地球発見マガジン

農村に灯る  
スロースローな明かり

特集 / 自然エネルギー

○ 2003年10月、特殊法人国際協力事業団 JICAは、独立行政法人国際協力機構 JICA に移行しました。

また、従来の JICA 広報誌「JICA FRONTIER」、「国際協力」「海外移住」は平成17年10月より、新しい総合広報誌（月刊）を発行しています。

11-6/15



「世界の屋根」ヒマラヤ山脈のふもとでは、10〜4月の乾期を迎えると、険しい山肌に赤茶色の大地が姿を現す。頂上まで開墾された斜面には棚田が果てしなく続く。

資源に恵まれず、険しい地形のために農産物の振興が困難なネパールでは、経済・社会開発が遅れ、1990年代から激化している反政府組織マオイスト（ネパール共産党毛沢東主義派）の武装闘争がさらに拍車をかける。インフラの整備も進まず、電化率はわずか15%、人口の9割を占める農村部に至っては5%しかない。人々は薪や牛ふんなど伝統的なエネルギーに頼り、中でも炊事や暖房などに大量に使用される薪の伐採は、深刻な森林破壊を招いている。

森林破壊は、土壌流出や土砂崩れなどの災害を引き起こし、農業や人々の生活を脅かす。また、破壊が進み、より遠くに薪を採りに行かなければならなくなった女性や子どもの労働負担が増え、健康や教育に影響が及んでいる。

さらに、電気がないため、夜間の照明はろうそくや灯油ランプに頼らざるを得ない。しかし、弱い光と炎が出す煙やすで、子どもたちの勉強や女性の手仕事もままならない上、目を悪くする人も多い。子どもたちは勉強や読書ができないため、学力がつかず、進学も難しい。自給自足に近い生活とはいえ、子どもの学費や灯油の購入などある程度の現金が必要だが、夜間にそのための仕事ができない。こうした状況を改善し、貧困から抜け出すために、現地の人々が切望しているのが電気だ。

94年、自然保護に取り組むネパールのNGO「キング・マヘンドラ・トラスト」は、破壊が深刻な森林の保護と人々の生活改善を図るため、人口約1900人のブジュン村で小規模水力発電の導入を計画、資金や技術の支援を求めている。当時、登山を通じてネパールとの友好を深めていた天野親聡（ちのちのち）さんは、森林破壊の状況に心を痛め、何かできることはないかと思案していた折に、水力発電の計画を知り、支援に向けて動き出した。募金活動や現地調査に奔走しながら、96年に「徳島ネパール友好協会」を設立。そして水力発電所を97年に着工、約2年かけて完成した。

「しかし、何もかもが初めてで苦勞の連続でした」と天野さんは振り返る。マオイストの活動の影響で資材の輸送に時間がかかったり、現地の人々の計画に対する意識の違いなどで工事が遅れ、天野さんや電気技師の出口隆司（りゅうし）さんを悩ませたが、「支援を、してあげる」のではなく、させてもらっている」と考え方を転換したことでも気が楽になりました。実際、現地の人々から多くのことを学んでいます」と笑う。

村が電化されてから、年間1500トンに及んだ森林伐採量は4分の1に減り、薪運びの労働から解放された子どもたちが学校に通うようになった。学校ではテレビが導入されたり自然保護の授業が行われたり、教育環境も向上している。女性にとって重労働だった脱穀作業も機械化されたほか、現金収入が増えたことで村や家庭の衛生環境も改善された。

電化を望む声はほかの村からも多いが、地形的に発電所の設置や送電が難しいところもある。そこで会では、そうしたバーチヨーク、プラノ、バーチヨーク、ドデニの3村に、太陽光発電と白色発光ダイオード（LED）を利用した家庭用照明の設置を支援することになった。小型ソーラーパネルを電源として、蛍光灯などと比べて消費電力が少なく耐用年数が長いLEDを照明に実用化したのは、LEDを開発した日亜化学工業（徳島県阿南市）を視察して発想を得たネパール人技術者らだ。このシステムは、低コストで設置・管理も簡単で、住民の自己負担も少ない。2004年に設置工事が開始され、今年初めに3村全248戸に村人念願の明かりが灯った。

「数十年前、日本でも多くの山村が未電化で、電気技師だった父は電気をつけに行ったそうです。ネパールにはそんな村がまだまだたくさんある」と出口さんは支援の必要性を訴える。会では「自分の村にも電灯を」という数多くの期待の声に応えていきたいとしている。

特集◎自然エネルギー  
農村に灯るスローな明かり

# ネパールの闇を照らす電気

国土のほとんどが電化されていないネパールでは、エネルギー源として大量の薪を消費し、深刻な森林破壊を引き起こしている。自然エネルギーを利用して村に電気をもたらし、森林破壊の阻止と人々の生活向上を図る試みに、徳島のNGOが協力している。

徳島ネパール友好協会  
〒779-3211 徳島県名西郡石井町藍柳字西覚円718-5  
TEL: 088-675-0835 FAX: 088-674-4168  
Email: tonfa@mxi.netwave.or.jp



2



3



4



5



6



1

- 1 自分の体重ほどある薪運びは女性や子どもの仕事。電化のおかげでこうした重労働も軽減された
- 2 炊事などに大量の薪を使い、夜間の照明は灯油ランプやろうそくのみ。これらの煙やすで目を悪くする人が多い。ろうそくやランプは火災の危険があり、ほやも起こりやすい
- 3 ブジュン村に設置された小規模水力発電所。2キロ離れた川から配水管を敷設して取水し、落差を利用した水の圧力で発電機を回す。村の電化委員会が使用料を徴収し、管理・運営に充てる
- 4 森林が伐採され、棚田が広がるネパールの山村
- 5 電化されたブジュン村では、夜間に若者の間で勉強会が開かれるようになった
- 6 日中、小型ソーラーパネルが蓄電し、9個のLED電球が付いた電灯を灯す。LEDは日亜化学工業が1万4,000個（270万円分）を無償提供した

11-7/15

○ ブジュン村・美馬教育基金の贈呈

LED事業完成式典出席のため、ネパールを訪問していた美馬準一氏は、3月21日カトマンズに滞在中のテルサ・バハドール・グルンさん（ブジュン村指導者）にお会いし、本年度支援金として20万円を寄贈しました。

「ありがとうございます、しっかり勉強します」

ブジュン村子供会一同



美馬準一さんから支援金を受け取る、テルサ・バハドール・グルンさん



5. 27 歓迎会で挨拶する  
スレッシュユ・シャヒさん

ネパールからの研修生受入

スレッシュユ・シャヒさん（30才）庭師（造園業の研修）

阿波市、(株)阿波三松園：社長 三浦嘉之氏にお世話になっています。7月23日（日）帰国予定です。（三浦氏は美馬準一さんの紹介です）



## ネパール・最近の状況！！

混乱が続くネパールでは、昨年2月1日に国王が非常事態を宣言、首相らを解任し直接統治し、政治的実権を行使、3年以内に平和と民主主義を回復する旨宣言した。

その後ギャネンドラ国王と対立する主要7政党がゼネストと抗議デモを続け民主化運動を展開してきた。デモへの弾圧に対する国際社会の批判の高まりに加え、反政府武装組織ネパール共産党毛沢東主義派も政党側と連携。国王は徐々に追い詰められてきた。

4月24日、ギャネンドラ国王は事態を収縮するため、「2002年5月に解散した下院を復活する」と発表し、28日に議会を再開するとし主要7政党は国王の提案を受け入れ、コイララ元首相を新たに首相候補に指名する旨合意、新政権樹立に向け動きがみられた。

5月3日政府は毛派に対し、無期限の停戦を宣言し毛派との和平交渉開始について提案。18日、同国下院はコイララ政権が提案したギャネンドラ国王の大権をはく奪する政治宣言を全会一致で採択。その後26日には政府と毛派の交渉が始まった。

カトマンズ 25日 水曜日

2006年(平成18年)4月26日 水曜日

## ネパール

# 国王、下院の復活表明

## 主要7政党 新政権を樹立へ

【カトマンズ25日共同】大規模な反国王デモで混乱が続いたネパールのギャネンドラ国王は二十四日深夜(日本時間二十五日未明)、国営テレビなどを通じ演説し、新たな民主化案として「二〇〇二年五月に解散した下院を復活する」と発表し、二十八日に議会を再開するとしている。主要七政党は二十五日、国王提案を受け入れ、ネパール会議派総裁のコイララ元首相を新たに首相候補に指名することで合意、新政権樹立作業に入った。

七政党は六日からのゼネストと抗議行動を取りやめ、首都カトマンズで「勝利の行進」を実施した。回国情勢は正常化へ動きだした。政党は国王が二十一日に示した民政復帰案を拒否し、議会再開を要求していた。コイララ元首相は二十八日に開会する下院で首相に任命され、新政権が発足する見通し。国王は下院復活について「七政党の民主化案に従い、国が直面した暴力的紛争と諸問題を解決するため」と表明した。政党側は二十五日に首都を囲む環状道路で最大規模となる五十万人の反国王デモを計画。国王はこうした動きに危機感を強め、大幅に譲歩したとみられる。

七政党は声明で「議会復活は政党が掲げた目的達成の扉を開いた」と歓迎。新憲法制定のための議会を開いて民主政権を達成する出発点として平和の回復を誓った。

七政党は反政府武装組織ネパール共産党毛沢東主義派にも国王提案受け入れを要請した。しかし、毛派は二十五日の声明で拒否し、昨年十一月憲議会選の実施を目的とする。



25日、ネパールの首都カトマンズで、コイララ元首相宅の外に陣取り、歓喜する政党活動家 (AP=共同)

徳島新聞報道によるネパール情勢

- 18. 4. 19  
**ゼネスト続くネパール**  
国王、除々に窮地へ  
民主化運動・・・毛派も連携、  
支持広げる
- 18. 4. 20  
**デモ隊に発砲4人死亡**
- 18. 4. 21  
**最大規模のデモ、首都に10万人超**
- 18. 4. 21  
**ネパールの政治危機**  
毛派におびえる国王
- 18. 4. 22  
**国王が民政復帰発表**  
首相推薦、早期選挙を要請
- 18. 4. 23  
**主要政党、国王案を拒否**  
民主化求め抗議デモ継続
- 18. 4. 25  
**「反国王」デモ、50万人規模に・・・元首相参加**
- 18. 4. 26  
**国王、下院の復活表明**  
主要7政党 新政権を樹立
- 18. 4. 28  
**下院、きょう開催**  
国王、コイララ首相任命

ネパールでギャネンドラ国王と対立する主要7政党が6日からゼネストと抗議デモを続け、国王が直接統治を始めた昨年2月以降で最大規模の民主化運動を展開している。デモへの弾圧に対する米国など国際社会の批判の高まりに加え、反政府武装組織ネパール共産党毛沢東主義派も政党側と連携。国王は徐々に追い詰められている。

ゼネスト続くネパール

「国王が兄(ビレンドラ元国王)を殺したのだ」。首都カトマンズ近郊キルティプルで九日、政府の外出禁止令を破って

国王、徐々に窮地へ

民主化運動 毛派も連携 支持広げる

政や学生ら約二千人が開いた集会。ある男性は、元国王が射殺され現国王が即位するきっかけになった二〇〇一年六月の王宮銃撃事件が、現国王の陰謀だったと言いつつ、「国王がいけない方が国が良くなる」。聴衆は一気に盛り上がった。

日のように治安部隊に投石し、衝突。治安部隊の発砲によりデモ隊側に死者も出ている。国際的批判高める

政党関係者は「治安部隊を挑発し、国際的な批判を高める。今はそれし

隊を挑発し、国際的な批判を高める。今はそれし

隊を挑発し、国際的な批判を高める。今はそれし

隊を挑発し、国際的な批判を高める。今はそれし

隊を挑発し、国際的な批判を高める。今はそれし

○ 18. 4. 29

**1年3ヶ月ぶり民政復活**

下院開催 新首相の健康に不安

○ 18. 5. 5

**ネパール政府が毛派に停戦宣言**

和平交渉開始へ

○ 18. 5. 19

**国王大権はく奪**

下院 宣言採択、全権行使へ

○ 18. 5. 20

**ネパール軍部**

**国王の指揮権はく奪に不満**

○ 18. 5. 27

**ネパール政府**

**毛派と和平交渉開始**

武装解除、選挙参加が焦点



国王ジャネンドラ

【ニューデリー18日共同】民政復帰により復活したネパール下院は18日、主要七政党で構成するコイララ政権が提案した「国王の権力をく奪する政治宣言を全会一致で採択した。同宣言は、国王の権力を象徴だった軍最高司令官

【ニューデリー18日共同】民政復帰により復活したネパール下院は18日、主要七政党で構成するコイララ政権が提案した「国王の権力をく奪する政治宣言を全会一致で採択した。同宣言は、国王の権力を象徴だった軍最高司令官

【ニューデリー18日共同】民政復帰により復活したネパール下院は18日、主要七政党で構成するコイララ政権が提案した「国王の権力をく奪する政治宣言を全会一致で採択した。同宣言は、国王の権力を象徴だった軍最高司令官

【ニューデリー18日共同】民政復帰により復活したネパール下院は18日、主要七政党で構成するコイララ政権が提案した「国王の権力をく奪する政治宣言を全会一致で採択した。同宣言は、国王の権力を象徴だった軍最高司令官

【ニューデリー18日共同】民政復帰により復活したネパール下院は18日、主要七政党で構成するコイララ政権が提案した「国王の権力をく奪する政治宣言を全会一致で採択した。同宣言は、国王の権力を象徴だった軍最高司令官

【ニューデリー18日共同】民政復帰により復活したネパール下院は18日、主要七政党で構成するコイララ政権が提案した「国王の権力をく奪する政治宣言を全会一致で採択した。同宣言は、国王の権力を象徴だった軍最高司令官

【ニューデリー18日共同】民政復帰により復活したネパール下院は18日、主要七政党で構成するコイララ政権が提案した「国王の権力をく奪する政治宣言を全会一致で採択した。同宣言は、国王の権力を象徴だった軍最高司令官

ネパール

**国王大権はく奪**

下院 宣言採択、全権行使へ

政府は新憲法制定のための制憲会議選挙を行う方針で、今回の宣言は新憲法制定まで国王の動きを封じ込める経過措置の意味もある。

ネパール政府

# 毛派と和平交渉開始

## 武装解除、選挙参加が焦点

【コロンボ26日共同】ネパール政府と反政府武装組織ネパール共産党毛沢東主義派の和平交渉が二十六日、カトマンズで始まった。双方のトップは三〇〇三年以来。

和平交渉は、新憲法の制定に向けた制憲会議選挙を前に毛派が武装解除と毛派指導者のプスバ・カマル・ダハル(別名プラチャンダ)書記長による本交渉への下地づくり

拘束中の毛派メンバー全員の釈放を決定、和平交渉開始に向けた条件を整えていた。

政府はシタウラ内相、毛派はナンバー3のマハラ報道官がそれぞれ交渉団を率い、コイララ首相と毛派指導者のプスバ・カマル・ダハル(別名プラチャンダ)書記長による本交渉への下地づくり



社会的弱者を代弁する人に投票しよう (選挙ポスターから)

2005年11月8日

徳島ネパール友好協会  
会長 天野 親 聡 殿

ネパール徳島(日本)友好協会  
会長 ビシュヌ・ゴバル・シュレスタ 殿  
カトマンズ、ネパール

親愛なる天野さん

拝啓

ネパールと日本の外交関係樹立50周年を祝うためにあなたが示された深い配慮に感謝いたします。

現在、私たち徳島ネパール友好協会は、2006年の日本とネパールの外交関係樹立50周年をどのように祝賀するかについて論議しております。私たちは、積極的にこれを祝いたいと考えております。かつてネパールでなかったような盛大な祝賀をと考えております。私たちの考えは、次のようなものです。

私たちがこれからの100年、200年もこれまでどおり親密な関係が続いていくことを願っております。

1、阿波踊り

30人の踊り手と10人のお囃子(三味線、鐘、太鼓、笛)

2、和太鼓、鳴島鳳翔太鼓

10人の鼓手

私たちは、祝賀行事についてあなたが示された壮大なプログラムを知らされて大変うれしく思っています。私たちとしても、祝賀行事を盛大なものとして成功させるためにあなたのご支援を願ってやみません。私たちが全力を尽くすことをお約束いたします。

50周年祝賀行事を盛大なものとするためにあなたのご支援を確信しております。

この計画は間違いなく多額の費用と手間がかかります。かつてない盛大な祝賀行事を実現させるために、ネパールに数多くあるネパールと日本両国の友好を願う団体が一つにまとまって、上記の二つのイベント実現のために要請書を取りまとめていただければ仕事が進めやすいのですが。

敬具

何とか積極的なサポートがいただけますように。

ネパール徳島友好協会	会 長	ビシュヌ・ゴバル・シュレスタ	サイン
日本留学生同窓会	会 長	アミラ・ダリ	サイン
ラブ・グリーン・ネパール	会 長	ラビ・ラミチャネ	サイン
ネパール日本語教師連盟	会 長	シャム・バハドール・ダンゴール	サイン
ネパール日本友好協議会	副会長	S・R・シャルマ	サイン
ULBA・ユースウイング	執行役員	マヘソワール・ジュジュ	サイン
ネパール・日本友好協議会	事務局長	マンビール・シン・パンティ	サイン
在日大学留学生協会	理事長	ビム・ブラサド・シュレスタ	サイン
ネパール日本友好文化協会	理事長	ウダヤ・ラル・シュレスタ	サイン

敬具

■註 上記8団体は、日本大使館が日常的に各種会合に招集される団体 (=日本大使館が活動的な団体と認知している団体と理解できる)。団体名(日本語)は、直訳で正確でない場合もあり得ます。

徳島ネパール友好協会  
会長 天野 親 聡  
徳島、日本

■日ネ友好50周年祝賀協議会は、現在公式用箋を制作中で出来上がり次第招請状を再送付するとのことです。

日本・ネパール国交樹立50周年記念協力会発足総会

## 50年の友好を祝い、50年の未来を築く

### 初めての日本人は河口慧海

今から105年前に、初めてネパール王国の地を踏んだ日本人僧侶河口慧海は、日本・ネパール関係史には欠かせない重要人物です。大蔵経の原典を求めて1901年と1914年の2回にわたってネパールを經由してチベットへ入り、膨大なチベット語経典を持ち帰り、後に首相に対して国の発展に関する多くの提言をしています。著書『西藏旅行記』には、当時のネパールの状況やチベットへ潜入した日々の記録が詳細に記載されています。

### マナスル登頂が日ネ国交の始まり

1956年（昭和31年）5月9日「日本登山隊ヒマラヤ山脈8千メートル峰マナスル登頂」のニュースが新聞の第1面トップを飾り、戦後の疲弊に喘いでいた日本社会が希望と自信を取り戻すきっかけとなりました。同年9月1日に、日本とネパール王国の間に正式な国交が樹立された背後には、マナスル第三次登山隊長だった横有恒氏、登頂者今西寿雄氏（現ネパール王国大阪名誉総領事今西邦夫氏の岳父）らの努力がありました。

### 日本・ネパール国交樹立50周年記念協力会

2005年7月9日に愛・地球博のナショナルデーに参加なさったパラス皇太子ご夫妻とラメッシュ・パンデ外務大臣を日ネ協会と日本山岳会共催の歓迎会にお招きした直後に50周年事業の話が進み、日ネ協会、日本山岳会、在日ネパール人協会、ネパール留学生協会、ネパール商工会議所日本支部の5団体によって「日本・ネパール国交樹立50周年記念協力会」への参加呼びかけが行われました。この段階では、各団体はそれぞれの責任で催事を行い、協力会はソフトなネットワークとして情報を提供し、統一ロゴを作って参加団体に提供するとされ、「呼びかけ文」が配布されました。

### ネパール・ウィークとジャパン・ウィーク

12月になると徐々に参加団体数も増え、各団体から自分の団体のことは自分でやるが、それ以上にネパール人が喜ぶことをするために力を出し合い、協力会として共同の催事を行おうということになりました。その具体的なプログラムとして、日本では9月24-26日に新宿京王プラザホテルで「ネパール・ウィーク・イン・ジャパン」を、ネパールでは11月19-26日に「ジ

ャパン・ウィーク・イン・ネパール」を開催し、その中に多くの団体の発表の場を設けようと、参加団体の募集と準備が進められています。



カトマンズでのロゴ交換会。  
左より外務大臣、ビシュヌ・シュレスタ会長、伊藤、平岡大使

### ネパールの「50周年記念調整評議会」起ち上げ式

2月24日にカトマンズの日本大使公邸で、「50周年記念調整評議会」の起ち上げ式が行われました。ラメッシュ・パンデ外務大臣と平岡邁日本大使から河口慧海に始まる両国関係史が語られ、貴重なフィルムも上映されました。日本からはパサン・ビシュワカルマ氏、府川公一氏、伊藤ゆきが参加し、ネパール側と日本側のロゴの交換が行われました。「50周年記念調整評議会」はビシュヌ・シュレスタ氏を会長として「日本の資金援助には一切依存しない」ことを前面に掲げています。お互いに協力しあいながら依存しない関係が今後の日本とネパールの望ましい姿ということでしょう。

### 日本の「50周年記念協力会」発足総会

3月3日銀座交詢社で、日本・ネパール国交樹立50周年記念協力会発足総会が盛大に開かれました。染郷正孝博士による記念講演「桜は日本とネパールの架け橋」で、日本の国花である桜のルーツはネパールのヒマラヤザクラであることが明らかにされ、驚きの声が上がりました。総会では、名誉会長にネパール探検家であり文化人類学者の川喜田二郎氏が、会長に橋本龍太郎元総理大臣が、顧問にネパール王国名誉総領事今西邦夫氏、篠隈光彦氏が選出され、「日本・ネパール国交樹立50周年記念協力会」が正式に発足しました。懇親会では、全国から集った120名ほどの参加者たちが相互に情報を交換しあい、ネパールへの思いを語りあいました。

11月19～26日には、誘い合ってネパールへ行くことで、ネパールの人々を力づけましょう。協力会のカレンダー (<http://www.jn50.com/>) や、日ネ協会のホームページ (<http://www.nichine>) をチェックして、相互に参加をして協力関係を広めてください。

(文責 伊藤ゆき)

1 開会

平成17年度 徳島県国際協力意見交換会

毎年1～2回開催されています、平成17年度意見交換会は、平成17年11月16日(木)16:00より徳島県国際交流協会で開催されました。

2 挨拶

徳島県国際交流協会 専務理事 川上 俊幸  
 徳島県文化国際課 課長補佐 大寺 博

3 出席者自己紹介

敬称略

団体名称	参加者
内蒙古愛ヤン教育経済支援協会	上田 勝久
鳥雲の森 砂漠植林ボランティア協会	早崎 勲
四国 NGO ネットワーク 徳島運営員	饗場 和彦
特定非営利活動法人 TICO	吉田 修
	福士 庸二
	西口 三千恵
徳島県青年海外協力協会	溝上 均
徳島タイ北部文化交流会	泉谷 文雄
徳島ネパール友好協会	天野 親聡
	古林 千之
徳島ユネスコ協会	山本 滝子
ハーモニー・ワーク・キャンプ	長尾 幸治
ヒューマンボランティア協会	清水 三枝
JICA 四国	松村 幸江
徳島県文化国際課	大寺 博
	吉岡 健次
	川口 雅代
徳島県国際交流協会	川上 俊幸
	原田 晶
	野口 利浩
	宮城 千穂

4 徳島県事業説明 吉岡 健次事務主任

5 JICA 事業説明 松村幸江徳島県国際協力推進員

6 休憩

7 NGO 講座について 徳島県交流協会職員 野口利浩

8 質疑応答 意見交換

9 閉会

平成17年度徳島県国際協力関係事業について

1 徳島県国際協力県民パートナーシップ事業

県内NGO等との協働によって、開発途上国から技術研修員を受け入れることにより、国際技術協力等の国際協力活動を県民参加によって推進する。

- ・ 受入団体 5団体
- ・ 受入研修員 5名(中国3名、タイ1名、ブラジル1名)
- ・ 研修分野 (日本語教育2名、農林、生物研究、防災研究)
- ・ 研修機関 (国立大学法人徳島大学、徳島県立農林水産総合技術支援センター、徳島市立とくしま動物園)
- ・ 研修期間 6カ月程度(9月下旬～10月上旬にかけて来日、来年3月末までに帰国)

2 リサイクル国際協力事業

県や市町村が保有する中古資機材や家庭で不要になった学用品等を県内NGOを通して開発途上国に提供することによって、県内NGO活動の活性化を図るとともに、開発途上国への支援を行う。

- ・ 本県出身の田岡駐日バラグアイ大使の要請を受け、県内自治体から消防自動車等の寄贈を受け、東京まで輸送している(現在3台、今年度中に6台、計9台輸送予定)。

(今後の予定)

- ・ 県内NGOからのニーズ・意見等を聴取
- ・ 地方公共団体や学校から学用品、中古資機材等の提供を呼びかけ
- ・ 提供いただいた学用品等をNGOへ提供(提供後、各NGOがそれぞれ学用品等を各自開発途上国へ輸送)

3 国際理解支援講師派遣事業

地域の交流イベントや総合的学習の時間等に講師を派遣し、ワークショップや講義形式で、国際交流や国際協力についての理解を促進する。

- ・ 本年度は19カ国延べ88名(11月14日時点)の講師を派遣

4 NGO入門講座事業

国際交流、国際協力に関心のある県民、団体等を対象にNGO入門講座を開催する。

5 自治体職員協力交流事業

海外の地方自治体等の職員を受け入れ、日本の自治体のノウハウや技術等を習得してもらう等、人材育成を通じた国際協力を推進する。  
 毎年度、徳島県が友好提携している中国広東省から自治体職員を受け入れている。

- ・ 派遣元 中国広東省経済貿易委員会
- ・ 研修先 徳島県商工労働部産業振興課
- ・ 研修分野 商行政

## 会員の動き

・ 田尾 佳代子さん 結婚のお祝会 (有志) 17年7月

・ 村上 光太郎さん 崇城大学薬学部教授に転出 (熊本県) 17年4月



日本テレビ、お昼“みのもんだ”の「おもいきりテレビ」に時々講師として出演、また徳島新聞に毎月1回連載中の「薬草を食べる」も112回(18.5.12)を数えています。今後もお元気で続けて下さい。

・ 山本 修三さん 医療法人「たまき青空クリニック」院長 17年9月

・ 櫻原 道治さん 医療法人たかがわ「虹の橋クリニック」院長 18年4月

・ 墓石 洋さん 三嶺の自然を守る会で「三嶺の自然を次世代へ」を発刊 (18年4月21日、NHKテレビに出演)



2006年(平成18年)4月28日 金曜日

標高一九〇〇呎、無灯火のネパール・プシユン村に明るい電灯がともってから早くも七年がたちました。美しいヒマラヤ山脈の雪解け水を利用して発電し、全村四百戸に配電するという大事業は、徳島のネパール友好協会によって集められた三千万円で完成しました。かわいい子供たちは初めて見る明るい電灯に感動し、小躍りをしていました。そして子供たちはテレビを見ることのできるようになり、夜間にも勉強をすることが可能になったのです。もう母と子供は毎日まき拾いに行く仕事もなくなり、年間千五百ポンドの木材が助かるのです。今回久しぶりに現地を訪れると、傾斜のきつい山道ですれ違ったすべての子供たちが、たどたどしい日本語で私たちに次の言葉を投げかけるのです。「中瀬先生ありがとう。電気の天野さんありがとう」。それは寮を寄贈し、この事業に力を尽くした二人への感謝の言葉です。私にとっては感動的でした。

(トイレット部長)

## お詫び

ネパール政情不安により、パーチャーク村外のLED照明設備設置後の確認と完成式典が延引し、本会報「コストラムロ・第10号」の発刊が大巾に遅れましたことを深くお詫びします。

## 徳島ネパール友好協会

☎779-3211  
徳島県名西郡石井町藍畑字西覚円718-5  
TEL・FAX 088-674-4168 TEL 088-675-0835

○事務局よりのお願い 会費未納の方は、下記に振込んで下さい。

振込先

(銀行振替) 阿波銀行 石井支店 (普) 1009369 徳島ネパール友好協会

(郵便振込) 石井郵便局 01600-2-52742 徳島ネパール友好協会

徳島ネパール友好協会メールアドレス : tonfa@mx1.netwave.or.jp

吉住千亜紀さん開設ホームページ アドレス

[星とネパール] <http://www3.justnet.ne.jp/~volty/-private>

[徳島ネパール友好協会] <http://www3.justnet.ne.jp/~volty/TONFA/t-nepal>